

教職員の評価・育成システムに関するアンケート（H29）調査結果について(まとめ)

改善策の検討総括

令和5年3月

アンケートの結果、評価者・被評価者ともに肯定的な意見が増加し、制度が適切に運営され着実に定着していることが判明。

システムや面談に対する評価者と被評価者との認識の乖離への対応や「授業アンケート」等の運用方法など、段階的に改善の検討を行うこととし、その検討等を下記のとおり実施。

平成30年度に実現（改善済）

- ① 自己申告票等、評価基準が伝わりやすい表記や様式等の工夫
➔ 「概ね」表記の変更とともに、「十分発揮」を「優れた能力発揮」、「発揮していない」を「期待通りとは言えない」等に変更
- ② 手引き等の整備など教職員への情報提供の充実
➔ ①の表記等の変更に伴い、「教職員の評価・育成システムの手引き」等の変更及び周知を実施
- ③ 評価者に求められるスキルに重点を置いたテーマ別研修等の実施
➔ 「評価・育成者研修」として、校長・准校長、教頭、事務（部）長、市町村教育委員会担当者に対し、テーマ別の研修を実施
- ④ 学校運営に関するシートの提出方法等の工夫
➔ 「学校運営に関するシート」の記入者の名前欄を削除

その他の検討及び結果

府立学校・市町村教育委員会等との意見交換の実施を踏まえた検討の結果

- ① 小学校・義務教育学校（前期）の授業アンケートの回答対象者を検討
➔ 高学年生（5, 6年生）の中には自分で回答が可能な児童もいると思われるが、総じて児童の発達段階を考慮すると、保護者を通じて児童の受け止めを確認する方が良い等の理由により「現行のまま（対象者は保護者）」とする。
なお、アンケートを **Web** 化するなど、効率化を図っていく。
- ② 経験年数等の指標、業績・能力ウェイトの導入などを検討
➔ 経験年数等の指標やウェイトの導入は、評価要素の細分化・数値化に繋がるが、細分化等すれば評価することがより難しくなることや、現状より納得性が高まるとは考えにくい等の理由により「現行のまま」とする。
- ③ 能力評価における懲戒処分等の取扱いの見直しを検討
➔ 既に現行において懲戒処分等を評価の一部として取り扱っていること等の理由により「現行のまま」とする。
- ④ 一次評価者の評価を非開示とする見直しを検討
➔ 一次評価者の評価を明らかにする方が、被評価者の納得感に繋がる等の理由により「現行のまま（一次評価者の評価を開示）」とする。

評価者・被評価者ともに、業務の負担軽減が図られるとともに、引き続き教職員の意欲や資質能力の一層の向上、学校の活性化をめざし、教職員の評価・育成システムの更なる充実・改善については、今後も必要に応じて取り組む。